

高取城址

高取山(583.3m)山頂に築かれた典型的な山城。南北朝以来、越智・本多・植村氏の居城。元弘2年(1332年)南朝方に属した高取の豪族、越智八郎邦澄が築城。越智氏の時代(1533年)までは、深谷峻賀崖の天険を利し、橋梁を設け本棚を廻らしたカキ上げ城で本城は貝吹山城であった。

その後、郡山城主となった豊臣秀長の命を受け、天正13年(1583年)に本多氏が入城、時の軍学者、諸木大膳技師長となり、石塁を築き土塀を廻らし、本丸に大小の天守閣を起し、多門を連ね、幾多の櫓楼を配して、山城に平城の築城技術の長所を採用し、要害堅固と美観の完成で面目を一新。近世的城郭として整備された。

本多氏が絶えた後、譜代の大名の植村家政が寛永17年(1640年)に入城。明治4年(1868年)の藩籍奉還まで14代234年間居城した。

高取城は城内(二ノ門より内)と郭内(釘抜門より内(「札の辻」より城側))に分けられる。城内は、約10,000平方メートル、周囲約3Km、城郭は約60,000平方メートル、周囲約30Kmという広大な物で、山城としては日本一であろう。

三層の天守、小天守を擁し、27の櫓(内、多門櫓5)、33の門、土塀2,900m、石垣3,600m、橋梁9、堀切5ヶ所。

現在、楼閣などことごとく消滅したが、石塁等は旧規模のまま存在し、本丸・二ノ丸の約10m余の石垣は昔日の傍観を呈し、更に当初の土塀跡も樹林雑草に隠見する遺構によって察知することが出来る等、ふもとの城下町とともに明治まで続いた山城としては、日本で、ほとんど唯一の例で、極めて貴重な遺構である。国の指定史蹟である。

壺阪寺(南法華寺)

西国六番札所で建立は大宝3年(703年)法相大徳弁基上人の開基で、京都の清水寺の北法華寺に対し「南法華寺」といい、長谷寺と共に古くから観音霊場として栄えた名刹である。

同寺のインドに対する社会奉仕の事業のお礼としてインド政府から贈られた大観音石像は高さ20m、石像としては世界最大である。

また、本堂のみ参拝して帰りがちであるが、本堂から1キロ余、山径を東へ廻ると高取山の山中、高香山に奥ノ院がある。堂字は残されていないが、五百羅漢両界曼荼羅の石仏像があり幽玄な趣が漂っている。こちらも、お勤めである。

たかとり城まつり

例年、11月23日(祝)に、高取城址及び城下町一帯で、「たかとり城まつり」が、開催されている。城址までのハイキングイベントや、鉄砲隊の実演、鎧甲冑を纏った時代行列、縁日等で賑います。また、併催される各種イベントも盛りだくさんです。

たかとり観光ボランティアガイドホームページ

たかとり観光ボランティアガイドでは、イベントの最新情報・ガイドのお申込・高取を題材にしたカレンダー・壁紙等を配信しています。是非、ご利用下さい。アドレスは、<http://www.takatori-guide.net/> です。